

平成27年度 三鷹中央学園 学園・学校評価アンケートまとめ

【第三小学校】

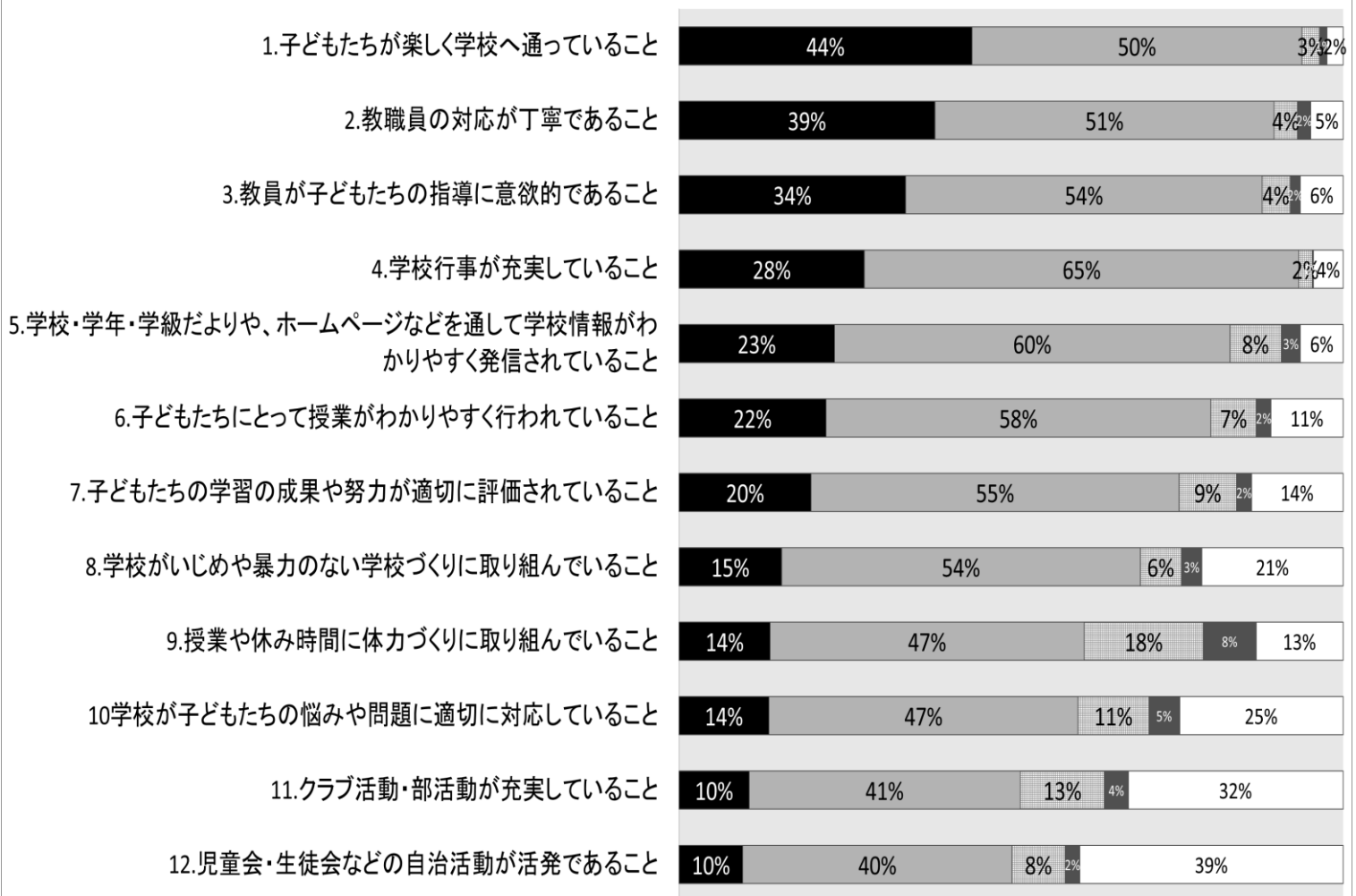
アンケート実施日： 平成27年10月22日～29日

アンケート対象者： 第三小学校保護者

回収率： 487世帯 / 507世帯 (95.1%)

学校に関すること(第三小学校)

■ a_よくできている ■ b_だいたいできている ■ c_あまりできていない ■ d_できていない □ e_わからない



アンケート結果から得られた課題

1 体力・運動能力の向上（設問9：否定的な評価が他の設問に比べて多い）

現在各学期に「三小体づくり運動」を行い、体育の授業や休み時間の活動と関連付けて、運動の日常化を図っています。体力テストの結果も向上が見られました。しかし、今年度も3週間程度、芝生の養生期間として校庭が使えない時期がありました。来年度はその期間に、四中の校庭や本校の健康ゾーン・プレイルーム等を使用した体力向上の取組を工夫して行き、体力・運動能力の一層の向上を図ります。

2 児童会活動・クラブ活動の紹介（設問11・12：「わからない」という回答が多い）

5、6年生によるよりよい学校生活にするための委員会活動、4、5、6年生による異年齢集団でのクラブ活動を通して、個性を伸ばし、自発的・自治的な活動の実践力や創意工夫する力を育てています。活動をより工夫しながら、ホームページや学校便り等を通して発信していくようにします。

成果

1 ノート指導の充実

学年を中心にノート指導のモデルについて検討し、指導をしています。問題解決の過程で「どうしてそうなるのか」、「どう考えたか」などの自分の考えを表現し、友達のよい考えも記録することで、さらに自分の力を伸ばすことや自分の伸びを実感できるようにしています。ノート指導の改善が授業そのものの改善につながり、児童の頑張りを評価するためにも活用しています。

2 学校図書館を活用した学習の推進

- ① 校内研究として学校図書館を活用した研究授業をすべての学年及び専科で行いました。担任が図書館司書と共に授業を考え、調べ学習を充実させたり、読書活動の幅を広げたりすることができました。
- ② 朝読書では集中して読書する時間の継続的な確保、年間2回の読書旬間では「三鷹中央学園推薦図書」を題材にした企画や地域人財を活用した読み聞かせなどに取り組み、読書への関心を高めました。

3 防災教育の充実

みたかスクール・コミュニティ・サポートネットの協力の下、全学年で防災の授業を充実させ、防災に対する普段の備えや災害時に取るべき行動を身に付けられるようにするとともに、自分の安全を自分で守る意識を高めることができました。

4 「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン」の連携と実践

「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン」について、保護者アンケートの回答を基に、9月に「三小知恵袋」を保護者会で配布し、家庭との連携を図りました。また、保護者会ごとに話題にして継続して取組状況を確認しています。12月からは、各学級においてパワーアップアクションプランの項目の一つ一つを適時に目標として提示し、児童も意識して取り組めるようにしています。

5 地域人財や文化財・施設等の積極的な活用

コミュニティ・スクール委員会、地域の方の協力を得て、「地域安全マップづくり」や「阿波踊り体験」など、全学年において地域の人財や施設等を活用した授業を行いました。そのことで、地域や郷土を愛する心を育み、地域に貢献する意識や感謝の気持ちが高まりました。

6 体力向上の取組

- ① 年3回の「体づくり運動週間」で、運動の日常化を図り、体力向上の意欲を高めています。アンケートの結果では、他の設問に比べ肯定的な意見が少ないのですが、体力テストの結果は伸びが見られます。
- ② オリンピック・パラリンピック教育推進校として、一流アスリートのお話を聞いたり、実技指導を受けたりすることで、運動への関心・意欲や体力向上の意識を高め、考え方からも多くのことを学び取っていました。

課題

1「三鷹中央学園いじめ防止対策基本方針」及び「いじめ防止年間指導計画」に基づく取組を行い、児童がより安心して登校できる学校をつくります。

- ① 全教職員が一丸となり、生活や授業の中での児童の様子について日常的に情報交換する場を設けて共通理解に努め、それぞれの立場でできることを役割分担するなど連携して対応に当たっています。
- ② いじめに関するアンケートを実施し、いじめにつながる状況をできるだけ早く発見し、事実を確認するとともに、児童一人一人の思いを受け止め、対応しています。
- ③ スクールカウンセラーと密に情報交換し、児童が自分の気持ちを話しやすい環境をつくっています。

2 児童が頑張ったことについて、評価の工夫を一層進めます。

- ① 教科の評価内容・方法を検討し、小中での系統性や一貫性を考え、教員間で共通理解を図っています。
- ② 児童にできていること、もう少し努力を必要とするところをその場で伝えるとともに、次の指導に生かし、その後の児童の学習の様子をよく見てよくなったところをすぐに伝え、ほめるようにしています。
- ③ 児童の理解が十分でなかったところについては、授業時間の内外に、個別に指導したり、補充的な学習の時間をつくったりすることで、基礎的・基本的な内容を身に付けられるようにします。

3 命の大切さや社会のルールについて計画的な指導を続けます。

- ① 道徳の授業で、命の大切さを題材にした授業を行い、児童が自ら気付くようにしています。
- ② 互いのよさに目を向け、そのよさを認め、言葉にすることで、自分も友達も大切にしようとする気持ちを育てています。
- ③ みんなが気持ちよく生活できるようにするために、毎月の生活目標を明確に示し、各学級においてしっかり指導するようにしています。